

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

単位制で培った一人ひとりの個性を大切にす長吉高校の教育力をさらに向上させ、エンパワメントスクール総合学科の枠組みを活用し、すべての生徒を「地域を支える人材」として育成できる学校づくりをめざす。

## 2 中期的目標

## 1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

- (1)「わかる授業」づくりをめざした校内体制の強化を図る。
- ア モジュール授業等で学習のつまづきを取り除き、基礎・基本の定着に努める。また、基礎学力の到達度を3年間通じて追跡する。
  - イ 授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・構造化・協働化）を進める。
  - ウ 電子黒板とタブレット端末などのICTを活用し、学ぶ楽しさを味わえる「わかる授業」を展開する。
  - エ 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取組み、生徒の基礎学力の向上を図る。
  - オ 教員の話す力などのコミュニケーション力を含めた「授業力」の向上を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を平成28年度には85%にする。(平成25年度74%)

## 2 安心して魅力ある学校づくり

- (1)エンパワメントスクール（総合学科）づくりを推進する。
- ア 従来の分掌体制を刷新する。
  - イ 学級経営を含めた担任としての力量の向上を図る。
  - ウ 3年間のエンパワメントタイムなどの内容等について取組みの継続とスムーズな運営を行う。
- (2)単位制生徒の学校生活への満足度を高める。
- ア 単位制生徒の卒業率をあげるとともに、未登録生徒に対し学校を続ける意思があるか確認しゼロをめざす。
- (3)生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。
- ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす。「気づきシート」「教科アンケート」を通じて、教員の生徒情報共有を密接に行う。
  - イ 「高校生活支援カード」の活用を通じて、様々な背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、支援、育成する体制づくりを進める。
  - ウ 図書室の活性化を図るとともに、ゆるやかな人間関係の構築を図る。
  - エ 魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、学校行事への意欲的な参加を図る。
  - オ 保健室、カウンセリングルーム、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
  - カ 生徒も一緒に清掃活動を行うことで施設を大切に使用する意識を育てる。保健委員の委員会活動を活発にする。
  - キ 部活動の活性化を図る。
- (4)出口を保障する学校づくりを推進するための本校独自のキャリア教育の確立を図る。
- ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
  - ※ 3年間で就職内定率を100%めざす。(平成26年度の就職内定率は86.8%)
  - イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
  - ウ 問題行動の未然防止に取組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。
  - エ 実用的な技能・資格の取得者の増加を図る。
- (5)人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。
- ア 教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことで差別の未然防止に努める。
  - イ 多様化する渡日生の母語保障及び日本語教育を推進する。
  - ウ 大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。
- (6)本校と専門学校・短大・大学との連携を進める。
- ア 大学等と連携しながら健康診断等の分掌業務の円滑な運営を図る。
  - イ 生徒の学習支援、進路支援とつながるような体制づくりをめざす。

## 3 積極的な情報発信

- (1) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。
- ア エンパワメントスクール総合学科の授業等を積極的に公開するとともに授業や行事等の高校生活によろすを学校説明会やHP等を通じて広報活動を行う。また、エンパワ生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。
  - イ 単位制生徒のがんばっている姿や様子をHP等により発信する。
  - ウ 生徒が小・中学校や地域等へ出かけていく取組み（ボランティア活動等）を進める。
- (2)地域の小学校、中学校との連携を深め、エンパワメントスクールにおける学び直しのモデルを作る。
- ア 近隣の小学校、中学校と、教科指導、生徒指導等について情報交換し、効果的な学び直しの手法等について研究する体制づくりをめざす。
  - イ 本校の国際的な人材資源を活用し、小中学校と協働して多文化共生の社会づくりを推進する。

## 4 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

- (1)校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
- (2)生徒の指導育成についての教員間の協議、調整を促し、学校力を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成27年12月実施分〕	学校協議会からの意見
エンパワメントスクールへの改編に伴い、今後の比較検討資料とするため一部の質問項目で「エンパワメント」「単位制」を分けて実施した。そのため、生徒向け・保護者向け集計も分けて行い、分析を行った。 【生徒向け】 ・回答数、回収率ともにエンパワメントになり大幅に改善した。	第1回5月30日（土） ・高大連携は相互に利益がなければ意味がない。生徒に将来が見えるような高大連携を ・モジュール授業は「わからんところがわかった」という視点で行うことが成果につながる。授業妨害する理由は授業がわからないから。わかる授業が最重要。 ・単位制生徒の進路を確保することがエンパワメントにとって一番大事。生徒の目に触れ

府立長吉高等学校

<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンパワメント生徒の生活面では、昼食に家で作ってもらったお弁当を食べている生徒が66%と昨年度の44%から大きく上昇した。</li> <li>・エンパワメント生徒対象「授業はわかりやすい」の項目において80%の目標に対し64%の結果であった。モジュール授業の取組みを生徒本人にどう実感させていくことができるかが課題である。</li> </ul> <p>【保護者向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数が昨年50から107になった。エンパワメント1年生の保護者の関心が高いことが伺える。</li> <li>・単位制の保護者対象「エンパワメントへの改編について、わかりやすく伝えている」の項目については肯定的な回答は60%に達していない。保護者や生徒状況に応じた説明の強化が喫緊の課題である。</li> </ul> <p>【教員向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒は授業にまじめに取り組んでいる」の項目において、昨年度の38%から59%に上昇した。</li> <li>・全質問項目の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の平均が昨年度の68%から今年度は75%に上昇した。学校改編に伴っての教員の意欲と活動量が数字に反映されているが、生徒や保護者の肯定的な回答率は下がっている。この差をどう埋めていくかが課題である。</li> </ul>	<p>るよう就職先の情報とかを掲示するとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃がきちりできれば学力もついてくる。きれいにするのが大事。</li> </ul> <p>第2回 11月6日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活で役立つような力が身につけばよい。生徒がもっと興味関心を持てる題材を授業でたくさん工夫してほしい。</li> <li>・長吉高校の授業アンケートの数字は良い数字ですか?先生の指導はどうなのか。教員側の自己満足になっていないか、その判断が大切です。</li> <li>・学校が落ち着いてきている。単位制生徒の卒業に向けて、しんどい家庭状況を抱えて勉強している生徒をサポートしてほしい。</li> <li>・新しいことを行えばいろいろな関係が出てくる。先生方の聞く姿勢が必要だし、学校と保護者がお互いに協力することが大切。</li> <li>・次に入学してくる生徒がどう評価して入ってくるか。どういう広報を行っているか、今一生懸命取り組めば結果に表れる。頑張してほしい。</li> </ul> <p>第3回 1月23日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への満足度は入学した時より卒業する時に高くなるよう取組みすることが大事</li> <li>・1年生には新しい長吉を作るという自負心を、単位制生徒には最後の卒業生という自負心を持たせる。</li> <li>・予防の生活指導が必要。事が起きてからでは後手になる。保護者連絡は心配の段階で行う。事後報告では遅い。</li> </ul>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	(1)「わかる授業」づくりをめざした校内体制強化 ア モジュール授業等の取組みを推進	(1) ア モジュール授業だけでなく、各教科において従来の授業の見直しを行い、「わかる授業づくり」に係るPTを立ち上げ組織的に進める。	(1) ア・「わかる授業」づくりPTを設けて各教科や教科を越えた取組みを企画・立案し実行する。 ・PTに初任者、本校の経験の少ない教員を加える。  ・1年生対象・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」に対して「そう思う」「ややそう思う」併せての回答を80%めざす。	ア・「わかる授業」づくりPTを7月に立ち上げたが、教材作りの核になる各教科の中心教員でPTを組織。初任者や経験の少ない教員を加えることまではできなかった。(△) ・1年生対象・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」に対して「そう思う」「ややそう思う」併せての回答は80%をめざしたが64%で達しなかった(△)
	ウ ICTを活用し「わかる授業」の展開	ウ 電子黒板とタブレット端末を効果的に活用できるよう、職員研修、研究授業等で教員の技量を高める。	ウ・電子黒板設置教室の授業活用率60%以上をめざす。 ・タブレット端末を活用する教員の割合を40%以上めざす。	ウ・電子黒板設置教室の授業活用率60%以上をめざし73%であった。及び、タブレット端末を活用する教員の割合を40%以上めざし50%であった(○)。
	エ 公開授業等を通じた授業改善の取組の推進	エ 公開授業等を実施し研究協議を行う。また、各教員が教科の取組み目標について自己申告票に「わかる授業」づくりの工夫を設定目標として加える。	エ・公開授業週間を年間2回以上実施する。 ・教員相互の授業観察を年間2回以上実施する。	エ・3回(6月、11月、1月)にそれぞれ公開授業週間を実施。それを利用して教員相互も授業観察を行った。1月に初心者対象の公開授業を実施し、ビデオを活用しながら研究協議を行い、本校の課題を全体で共有した。(◎) ・自己申告票提出者57名中教諭52名が設定目標に取り入れた。(○)
オ 授業力の向上	オ 各教科において研究授業や相互の授業観察を通じて授業力の向上を図るとともに職員研修の実施する。	オ・授業力の向上及び担任の力量の向上に関連する研修を2回以上実施する。	オ・授業力向上、担任力向上めざした研修を外部講師を活用して3回実施した。(◎)	
2 安心して魅力ある学校づくり	(1)エンパワメントスクールの推進 ア 分掌体制の刷新	(1) ア エンパワメントスクールの学年制に合わせて、再編検討委員会を中心となり分掌体制の再構築を行う	(1) ア・学年制に即した分掌体制を10月までに整える。	(1) ア・分掌再編委員会を中心に検討を進めたが、諸事情により次年度に先送りした。(△)
	イ 担任としての力量の向上	イ 担任としての力量を高めるために教職員研修を行う。	イ・(再掲) 授業力の向上及び担任の力量の向上に関連する研修を2回以上実施する。	イ・(再掲) 授業力向上、担任力向上めざした研修を外部講師を活用して3回実施した。(◎)
	ウ エンパワメントタイム等の取組み	ウ 総務部と1年担任団が連携しながら、エンパワメントタイム等について継続的に取組み、スムーズな運営を行う。	ウ・エンパワメントタイム及びモジュール授業の効果検証をアンケート等により行う。	ウ・エンパワメントタイム及びモジュール授業の効果検証について、授業アンケート等によると概ね良好である。(○)。
	(2) 単位制生徒の満足度高める ア 単位制生徒の卒業率の引き上げと未登録生徒への対応	(2) ア 単位制生徒の授業への出席率をあげ、単位修得率を向上させて、卒業者を増やす。また、チューターが中心となって、組織的に未登録生徒に対し学校を続ける意思があるか確認する。	(2) ア・生徒の単位修得に向けての密な情報共有の取組みを行う。 ・この取組みを通じて生徒への得た声掛けを4月から行う。  ・授業に集中させる指導を全教員で行う。	(2)ア・4月授業開始前に人権文化部と保健カウンセリング部共催で配慮を要する生徒の情報共有研修を実施。また、職員会議で各年次・学年から機会をとらえて出席不振者の報告あり。これをもとに各教科等で声掛けを行えるようにしている。(◎) ・単位制生徒には機会をとらえて授業へ集中すること、特に携帯電話の使用を授業中は厳しく指導することを伝え、今年度は授業中の使用による指導はほとんどなく、取

## 府立長吉高等学校

	<p>(3)セーフティネットの拡充 ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす</p> <p>ウ 図書室の活性化</p> <p>エ 学校行事の改善</p> <p>カ 清掃活動の推進</p> <p>キ 部活動の活性化</p> <p>(4)本校独自のキャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進</p>	<p>(3)ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。</li> <li>・担任等は生徒の出欠状況の把握を行い、出席率の低い生徒や長期欠席者等を中心に早期に保護者と連絡をとる。5月連休明け、夏休み明け、後期の早い段階、冬休み明けの生徒の出欠状況に応じて、生徒や保護者との懇談や家庭訪問を行う。</li> <li>・保護者対象の学校教育自己診断における要望に対しては速やかに対応する。</li> </ul> <p>ウ 図書委員生徒を活用し、おすすめ図書の充実とともに、生徒が図書室に来て本を読みたくなるような工夫を行う。</p> <p>エ 単位制と学年制の学校行事との調整を生徒部と学年、年次間で図るとともに、生徒が積極的に取り組めるような学校行事に改善する。</p> <p>カ 1年生は毎日教室の清掃を行うとともに、2・3年次は週1回のHRを利用して教室の清掃を行う。</p> <p>キ 1年生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教員で取り組む。</p> <p>(4) ア・ガイダンス部による3年間を見通したキャリア支援計画をCCのアドバイスをいれて作成し、1年生における指導のテーマと達成目標を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ応募開始時期を早めに周知し、キャリア支援計画に基づき中間年次生のうちアルバイト経験等のない生徒にできるだけインターンシップを経験させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と生徒の状況を共有する。</li> <li>・年次とガイダンス部が協力し余裕ある単位登録を全生徒に行う。</li> <li>・管理職も協力しての保護者懇談を適宜実施する。</li> <li>・未登録生徒への連絡確認を夏休みまでに行う。</li> <li>・連絡が取れない生徒へは夏休み中に家庭訪問を行い状況の確認をする。</li> <li>・これらの対応を通じて未登録生徒を年度末までに昨年度より50%減少させる。</li> </ul> <p>(3)ア・1年生は4～5月に生徒・保護者との懇談期間を設ける。また、出席率の低い生徒には状況に応じて保護者懇談や家庭訪問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)項目について、70%以上維持する。【昨年度70%】</li> <li>・「担任等に相談しやすい」(保護者用)の項目について80%以上維持する。【昨年度88%】</li> <li>・保護者から出された要望に対しては速やかに対応する。</li> <li>・学校協議会での提言を速やかに全教員へ伝え、改善に向けての取組みをHP等を通じて周知する。</li> </ul> <p>ウ・図書室の昼休み、4時間目を含む放課後の利用者を前年度よりも5%増やす。(昨年度1637人)</p> <p>エ・生徒対象・学校教育自己診断の「学校行事に満足している」項目が60%以上をめざす。</p> <p>カ・清掃状況については、1か月ごとに学年主任及び年次リーダーから報告を受ける。</p> <p>キ・年度末における1年生の部活動加入率45%をめざす。(昨年度入学年次部・活動加入率30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動活性化のため毎週月曜日は原則3時以降の会議は行わない</li> </ul> <p>(4) ア・3年間を見通したキャリア支援計画の作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間年次生徒に向けて進路決定時期を12月までに行い、来年度科目選択のミスマッチを防ぐ。</li> <li>・中間年次生徒で就職を希望する生徒へインターンシップを勧め15名参加をめざす。(昨年度中間年次・参加生徒7名)</li> </ul>	<p>組みの効果がでた。教員向け学校教育自己診断における「生徒は授業にまじめに取り組んでいる」が昨年度38%から59%へ上昇した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間7回の保護者懇談期間を通じて、保護者と生徒の状況を共有した。また必要生徒には各学年、年次とも随時保護者懇談を実施した。(○)</li> <li>・ガイダンス部が協力して80単位登録を卒業年次で推進した。(○)</li> <li>・校長による卒業年次の生徒への修学指導を9月5名に実施した。また、3月に中間年次成績不振対象約60名中40名に、1年の成績不振者約35名と原級留置生徒約7名に管理職による保護者同伴の指導を行う。(◎)</li> <li>・未登録生徒に対して卒年の先生方と運営委員が協力し、夏休み中から継続的に電話及び家庭訪問を通じて生徒・保護者への連絡を組織的に進めたが、昨年度より50%減少は難しい。(△)</li> </ul> <p>(3)ア・1年生は4～5月に全生徒・保護者との懇談実施。家庭訪問も約40回実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)項目について、70%以上維持するに対し、エンパワメント64%、単位制73%であった。(○)</li> <li>・「担任等に相談しやすい」(保護者用)の項目について80%以上維持するに対し、エンパワメント64%、単位制77%で未達成。(△)</li> <li>・保護者から出された要望に対しては速やかに対応するとともに学校協議会でいただいた提言については、学校協議会後の職員会議で報告した。(○)</li> </ul> <p>ウ・図書室の昼休み、4限目を含む放課後の利用者は昨年度1637人から2446人に増えた。49%の増加率(◎)</p> <p>エ・生徒対象・学校教育自己診断の「学校行事に満足している」項目が60%以上をめざすに対し、エンパワメント52%、単位制60%であった。(○)</p> <p>カ・エンパワメント生徒への清掃指導は徹底したが、学年主任、リーダーからの報告体制を築くまでは至らなかった。(△)</p> <p>キ・年度末における1年生の部活動加入率45%をめざすに対し、1月現在約30%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動活性化のため毎週月曜日は原則3時以降の会議は行わないに対し、職員会議を除き、原則毎日16時以降に会議を入れ、部活動指導や生徒対応の時間を確保することにした。(○)</li> </ul> <p>(4) ア・3年間を見通したキャリア支援計画は作成した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定時期を中間年次で12月までに行えるようガイダンス部と連携しながら取り組み、保護者説明会を1月に実施した。(◎)</li> <li>・中間年次生徒で就職を希望する生徒へインターンシップを勧め15名参加をめざすに対し、中間年次インターンシップ参加生徒10名、卒業年次参加生徒5名で達成できず。(△)</li> </ul>
--	---	--	--	--

府立長吉高等学校

	<p>イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上</p> <p>ウ 社会人としての態度・マナーの育成</p> <p>(5)人権教育の推進 ア 教員の人権意識の向上</p> <p>イ 多文化共生の学校づくりの推進</p>	<p>・ガイダンス部と保健カウンセリング部等分掌間の連携を図り外部人材の連携と活用を推進する。</p> <p>イ・長吉高校における教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。</p> <p>ウ・単位制とエンパワメントスクール併存期の生徒指導について、混乱がおきないようにする。1年生については、遅刻や服装・頭髪等について指導を行う。</p> <p>・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。</p> <p>(5) ア・単位制とエンパワメントスクールの併存期における教員の人権意識を高める取組み具体化する。</p> <p>イ・外国にルーツのある生徒と日本人の生徒との交流の機会を増やす取組みを行う。</p>	<p>・CC、SC、SSW と密に連携をとり効果的な活用を図る。</p> <p>イ・生徒対象・学校教育自己診断に「私は長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う」の項目60%以上をめざす。【昨年度60%】</p> <p>ウ・生徒部と1学年の連携を図るため定期的話し合う。 ・例えば月ごとに生徒指導の重点項目を決め取り組む。</p> <p>・生徒対象・学校教育自己診断に「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」の項目70%を維持する。【昨年度76%】</p> <p>(5)ア・単位制とエンパワメントスクール併存期の生徒間の諸問題に対応する人権研修を保健カウンセリング部や人権文化部が関係学年年次と連携し実施する。</p> <p>イ・交流の機会を人権文化部が関係学年、年次と連携し、1回以上設定する。</p>	<p>・CCについてはうまく活用しきれなかったが、SC、SSWは保健カウンセリング部と各年次、学年が調整、連携しながら効果的に活用を図った。(○)</p> <p>イ・生徒対象・学校教育自己診断に「私は長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う」の項目60%以上をめざすに対し、エンパワメント44%、単位制65%であった。(△)</p> <p>ウ・1年学年主任が生徒部長と連携を図りながら、1年生の服装・頭髪・装身具・遅刻・授業規律等の指導についてガイドラインを決め取り組んだ。(◎)</p> <p>・生徒対象・学校教育自己診断に「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」の項目70%を維持するに対し、エンパワメント68%、単位制76%。(○)</p> <p>(5)ア・4月、5月の2回、配慮を要する生徒確認の研修を保健カウンセリング部と人権文化部の共催で全教員に向けて実施。(◎)</p> <p>イ・日本人生徒と外国にルーツをもつ生徒が部分的に交流しているが、本格的な交流する機会までは作れなかった。(△)</p>
<p>3 積極的な情報発信</p>	<p>(1) 中学校等への広報強化 ア エンパワの授業公開及び学校説明会等の実施</p> <p>イ 単位制生徒の頑張っている様子を発信</p> <p>ウ 地域等との連携した取組の推進</p> <p>(2)地域の小中学校との連携の推進 ア 小中学校との授業等に関する情報交換</p>	<p>(1) ア・エンパワメントスクールの授業を公開授業週間に公開し、保護者及び中学校の先生、地域の方々に見学してもらう。また、HP等を通じてエンパワメントスクール入学生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。さらに、エンパワメントスクール入学生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。</p> <p>イ・単位制生徒の頑張っている様子等についてHP等で発信する。</p> <p>ウ・地域清掃などのボランティア活動や出前授業、ゲストティーチャー等、地域へでかける取組みを進める。</p> <p>(2) ア・地域の小中学校との授業研究、生徒指導研究等について情報交換し、学校連携を継続的に行う体制を構築する。</p>	<p>(1) ア・(再掲)公開授業週間を年間2回以上実施する。</p> <p>・HPや校門及び玄関前の掲示板の活用を図る。月に1回は掲示内容を入れ替える。</p> <p>・エンパワメントスクール入学生徒の出身中学校訪問を10件以上めざす。</p> <p>・平野・東住吉・住吉・阿倍野区、八尾市、松原市、東大阪市、藤井寺市、羽曳野市を中心に、管理職を含めた教職員による中学校訪問を年間2回以上実施する。</p> <p>イ・HPや校門及び玄関前の掲示板の活用を図る。月に1回は掲示内容を入れ替える。</p> <p>ウ・保健カウンセリング部が保健委員の生徒を中心に生徒有志を募り、「地域清掃」を年間2回以上行う。</p> <p>(2) ア・近隣及び参考となる実践を行っている中学校等の授業見学を1校以上実施する。 ・近隣の中学校と授業や生徒指導に関する情報交換をできる土台をつくる。</p>	<p>(1)ア・6月、11月にそれぞれ公開授業週間を実施。1月には初任者対象の授業公開を実施。(◎)</p> <p>・総務部でHPについては随時更新を図るとともに、校門等の掲示板については概ね月1回のペースで掲示内容を入れ替えた。(○)</p> <p>・総務部でエンパワメントスクールの入学生徒を広報委員として14名組織し学校説明会で活用するとともに、出身中学校に7名の生徒を訪問させた。(○)</p> <p>・平野・東住吉・住吉・阿倍野区、八尾市、松原市、東大阪市、藤井寺市、羽曳野市を中心に、6月と9月に中学校訪問を実施した。(○)</p> <p>イ・総務部でHPについては随時更新を図るとともに、校門等の掲示板については概ね月1回のペースで掲示内容を入れ替えた。(○)</p> <p>ウ・保健カウンセリング部が保健委員の生徒を中心に生徒有志を募り、大和川清掃に7月、9月、11月、3月(参加予定)に参加し感謝された。(◎)</p> <p>ア・近隣及び参考となる実践を行っている中学校等の授業見学について調整を図ったが実施できなかった。(△)</p> <p>・長吉西中学校と部活動顧問教員中心に生徒の合同練習等を通じて交流を行ったが、授業及び生徒指導に関する情報交換の体制づくりまでには至らなかった。(△)</p>
<p>し 4 た ICT を活用</p>	<p>(1) ICT等の活用により、教職員の事務作業時間を軽減する</p> <p>(2)生徒の指導育成についての教員間の協議、調整を促し、学校力を高める。</p>	<p>(1) ・校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。また、このことにより、教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する</p> <p>(2) ・教科会議、各委員会における教員間の協議、調整の経過報告を求め、分掌間、教科間の協議、調整力を高める。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。</p>	<p>(1) ・職員朝礼の廃止に伴う、教職員への日々の連絡体制を構築する。</p> <p>(2) ・教科会議、分掌会議を月1回開催できるように努める。 ・分掌体制の刷新に伴う学校運営体制を図式化し、業務及び責任の所在を明確にする。 ・教職経験年数の少ない教職員対象の校内研修を2回以上実施する。</p>	<p>(1)・単位制と学年制それぞれ別々に職員朝礼を行い、SSCの掲示板を活用。行事日等は全体の職員朝礼を実施した。(○)</p> <p>(2)・教科会議、分掌会議を月1回開催できるように努めたが、思うようにはできなかった。(△)</p> <p>・今年度の分掌の改編ができなかったためです。(△)</p> <p>・教職経験年数の少ない教職員対象の校内研修は、2月実施の1回だけだった。(△)</p>